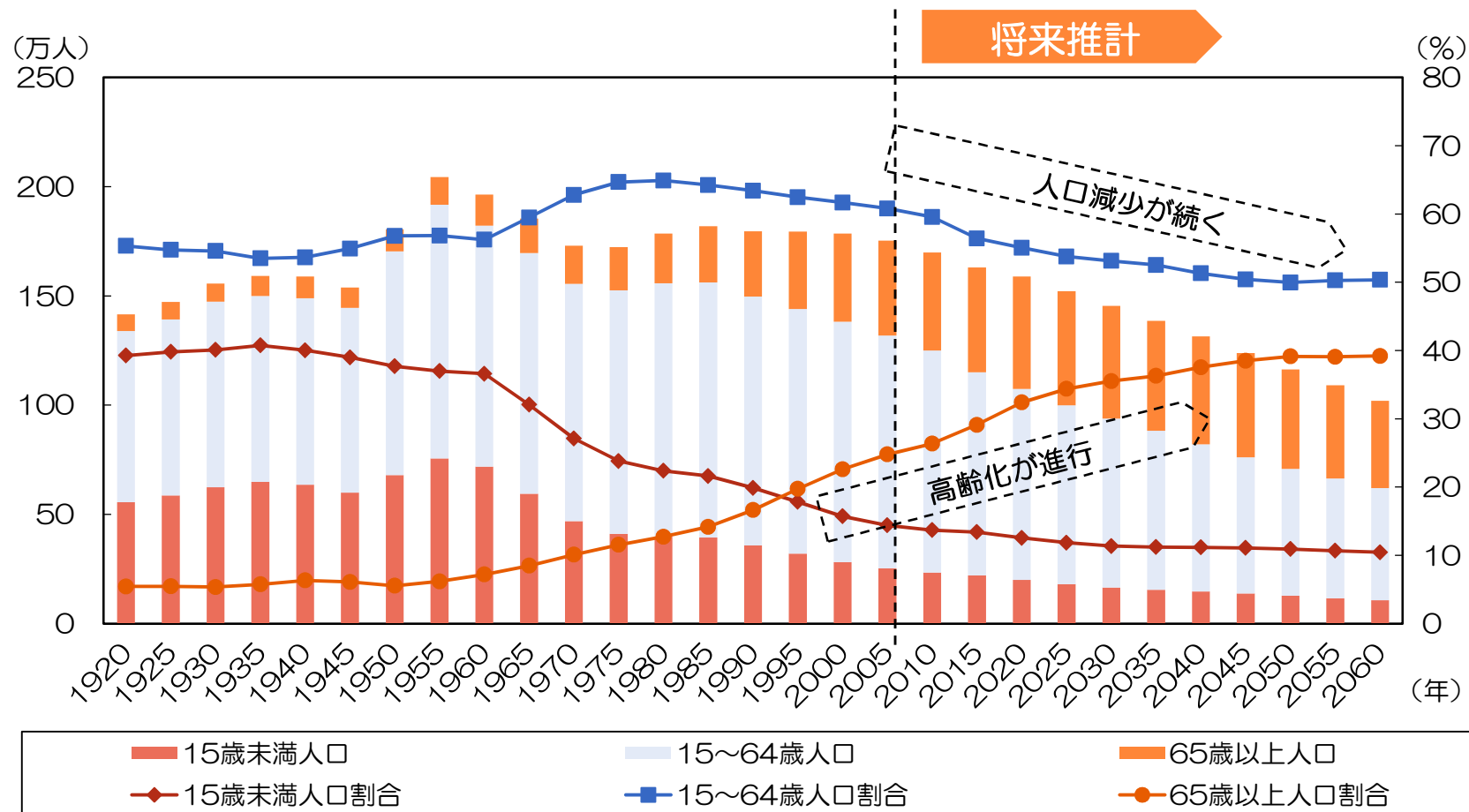


本県の人口減少・少子高齢化の現状

- 1 人口の推移
- 2 人口動態の推移
- 3 合計特殊出生率・出生数の推移
- 4 平均初婚年齢の推移
- 5 高等学校卒業者の進路状況
- 6 人口減少・少子高齢化の課題

1 人口の推移（年齢3区分別）



総務省「国勢調査」，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

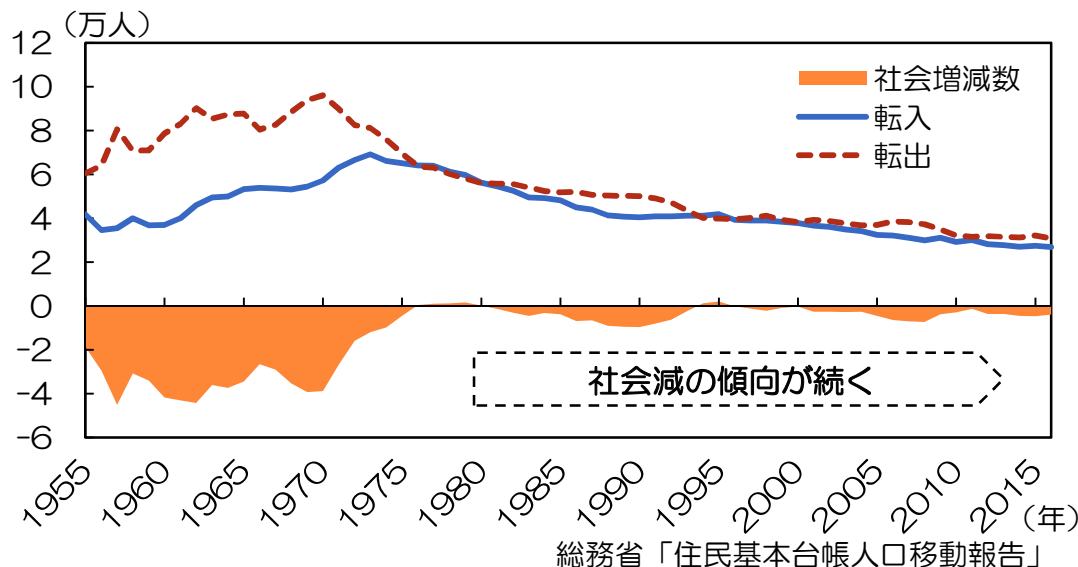
1995(平成7)年
人口 約179万4千人
高齢化率 19.7%

2005(平成17)年
人口 約175万3千人
高齢化率 24.8%

2015(平成27)年
人口 約164万8千人
高齢化率 29.4%

2 人口動態の推移

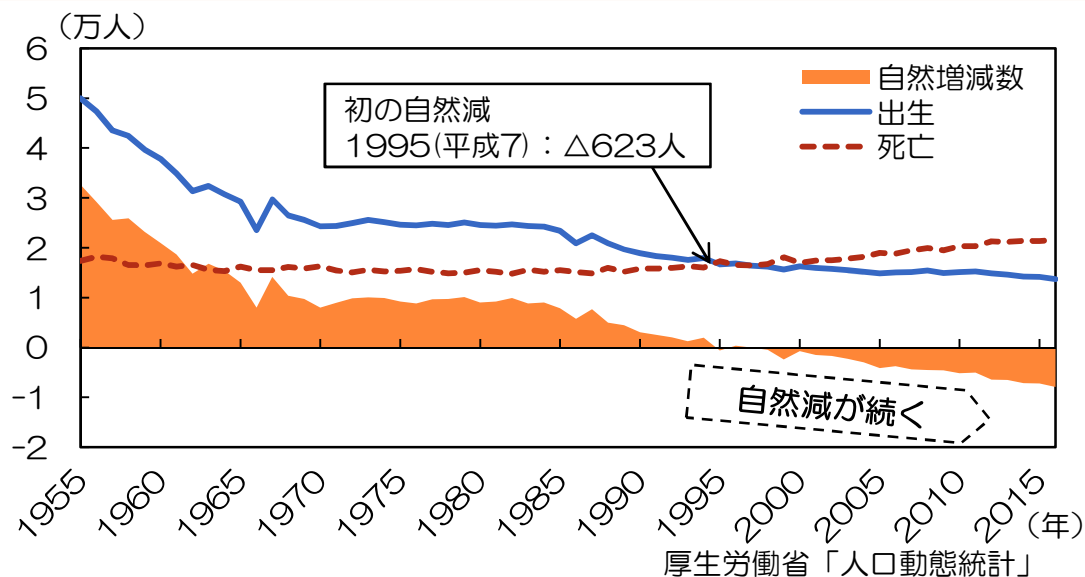
社会動態



2016(平成28)年
転入 26,840人
転出 30,795人
社会増減 $\Delta 3,955$ 人

- 高度成長期は大幅な人口流出が続く
- 昭和50年代には、流出に歯止めがなかったものの、その後も社会減の傾向

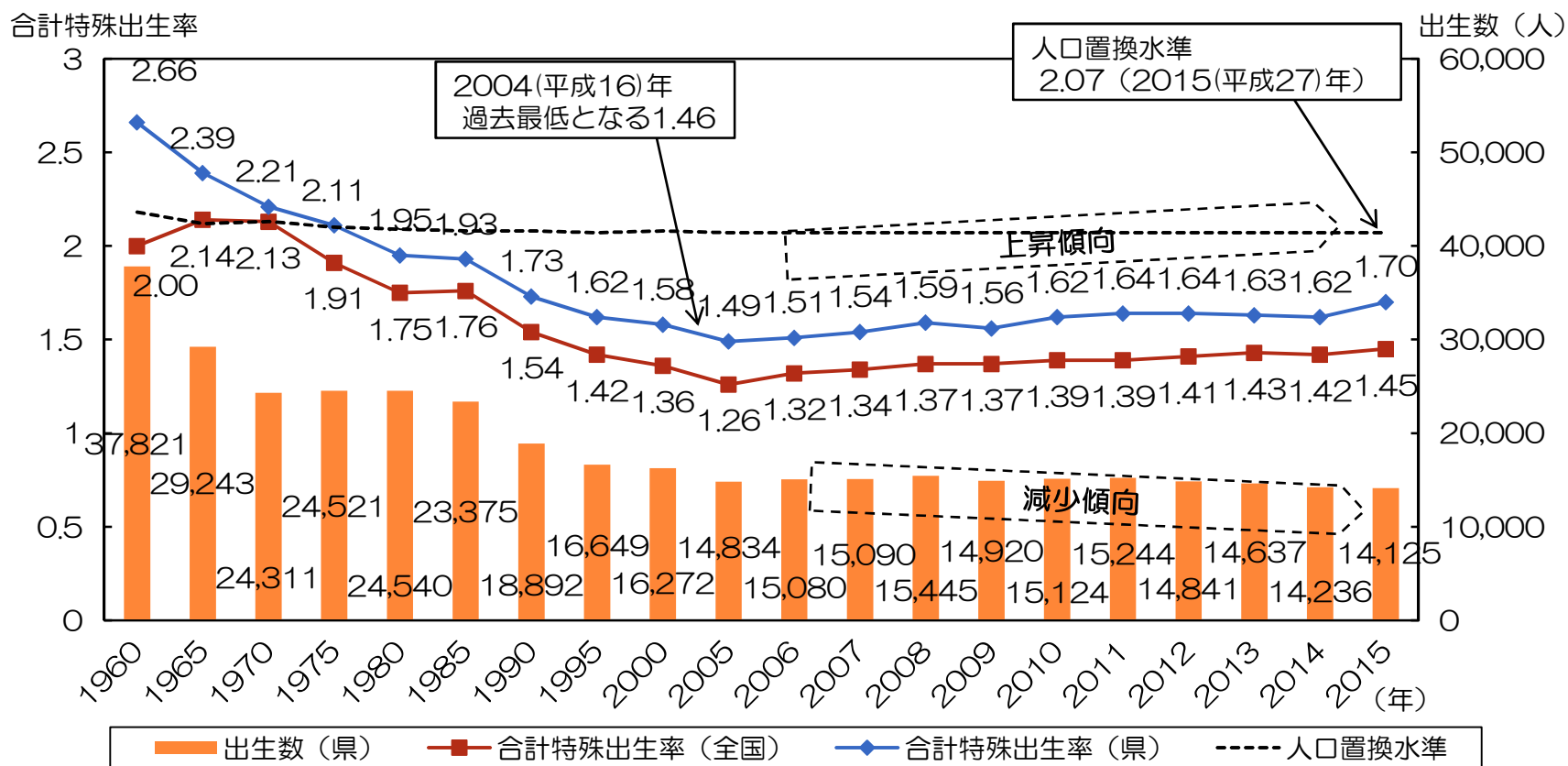
自然動態



2016(平成28)年
出生 13,688人
死亡 21,610人
自然増減 $\Delta 7,922$ 人

- 長らく自然増の状態が続いたが、1995(平成7)年に自然減となり、1997(平成9)年以降は自然減が続く

3 合計特殊出生率・出生数の推移

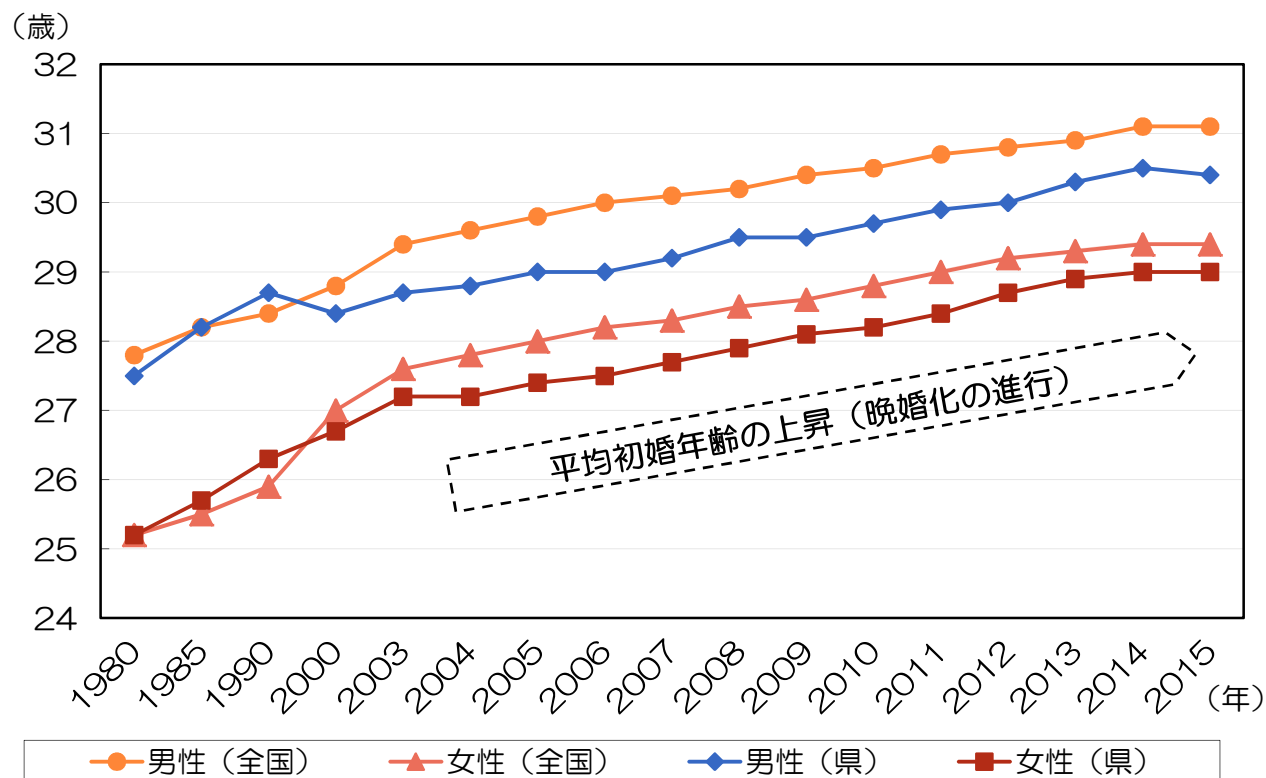


県保健福祉部「衛生統計年報」，厚生労働省「人口動態統計」

2015(平成27年)
合計特殊出生率 1.70
出生数 14,125人

- 合計特殊出生率は全国を上回るものの、1980（昭和55）年以降、人口維持に必要な水準を下回り続けている。一方で、過去最低となった2004（平成16）年以降、上昇傾向にあるものの、人口減少の影響から出生数は減少（2005年と比べ 合計特殊出生率：0.21増，出生数：△709人）

4 平均初婚年齢の推移



2015(平成27)年
 本県 男性 30.4歳
 女性 29.0歳
 全国 男性 31.1歳
 女性 29.4歳

- 本県の平均初婚年齢は、男女とも全国より低い水準で推移
- 一方で、全国と同様に晩婚化が進行しており、1980（昭和55）年と比べると男性が約3歳、女性が約4歳ずつ上昇

厚生労働省「人口動態統計」

生涯未婚率※

区分		1980年	2015年	比較増減
県	男性	2.8%	22.6%	+19.8%
	女性	5.3%	14.7%	+9.4%
全国	男性	2.6%	23.4%	+20.8%
	女性	4.5%	14.1%	+9.6%

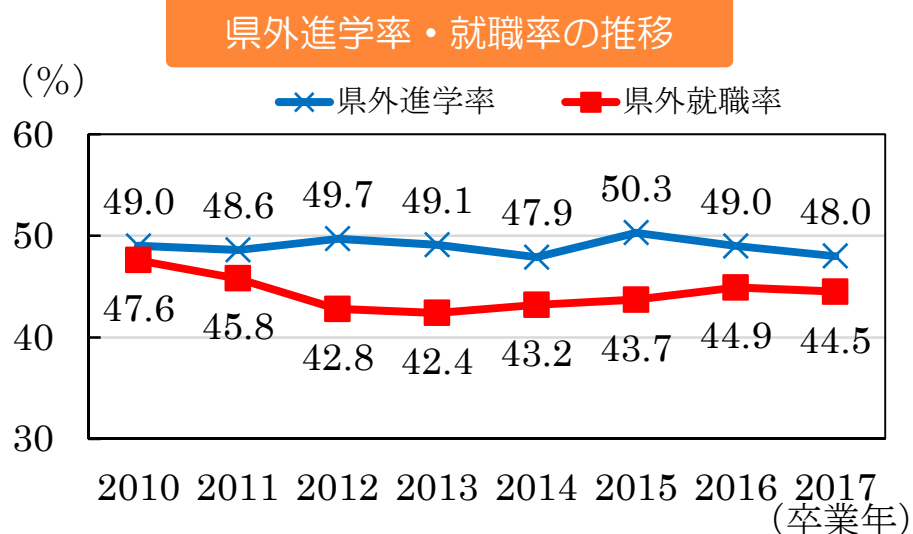
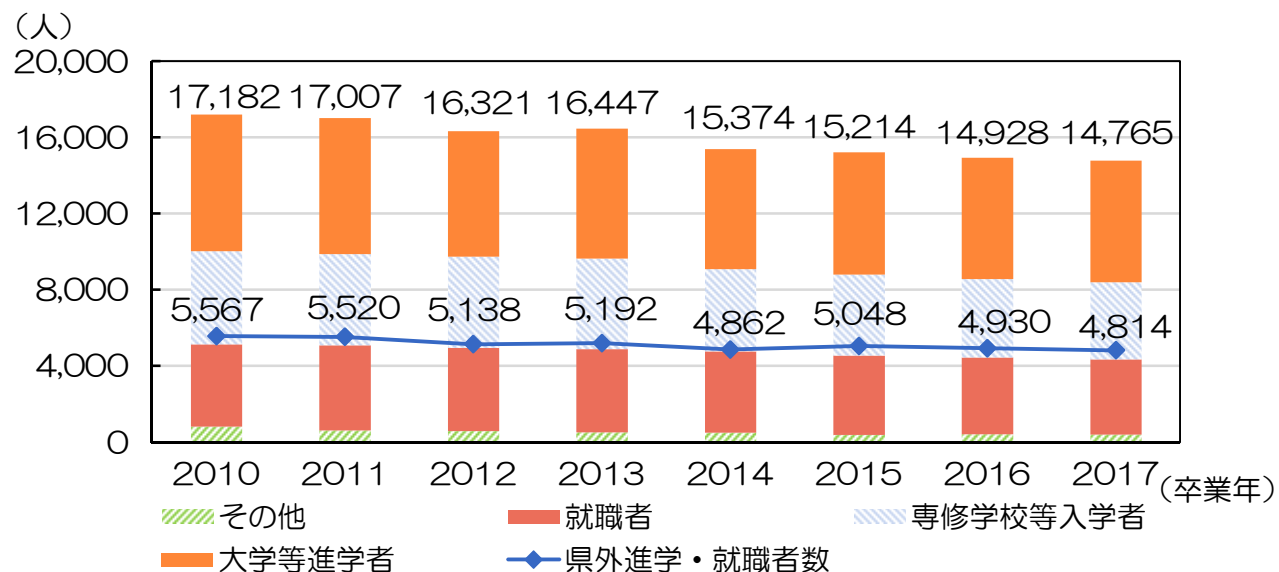
※50歳時点で一度も結婚したことのない人の割合

総務省「国勢調査」

2015(平成27)年
 本県 男性 22.6%
 女性 14.7%

- 生涯未婚率も上昇を続けており、1980（昭和55）年と比べると男性が約8倍、女性が約3倍の水準まで上昇

5 高等学校卒業者の進路状況



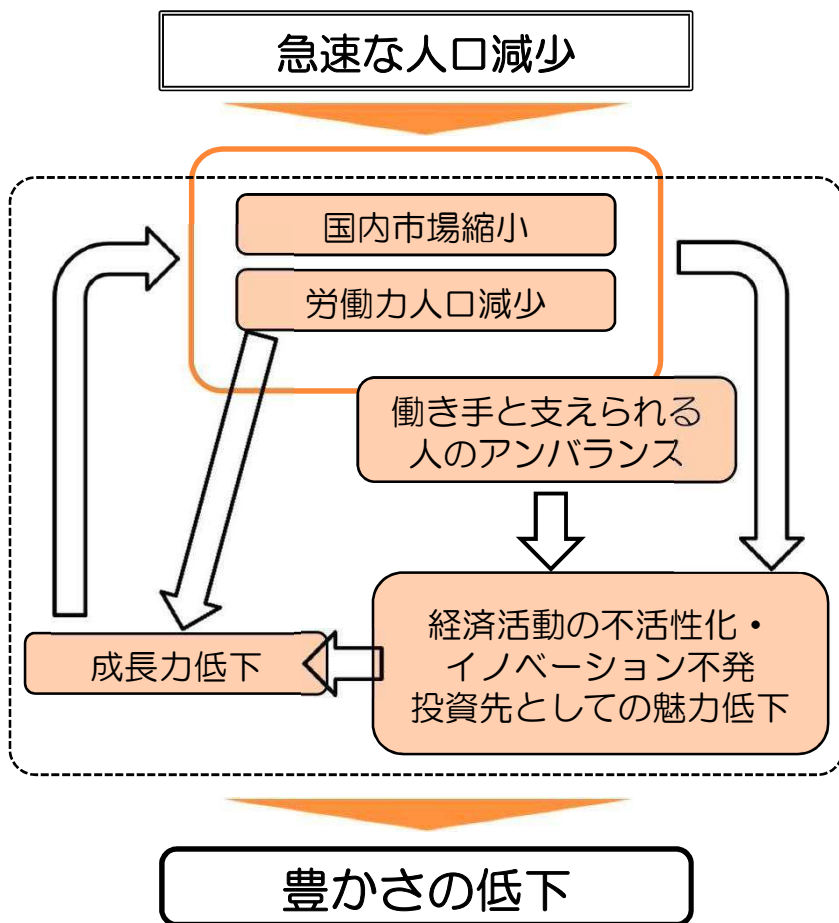
県外就職率の高い都道府県
(2017(平成29)年3月)

順位	都道府県名	県外就職率
1	鹿児島県	44.5%
2	宮崎県	44.2%
3	青森県	42.5%
3	熊本県	42.5%
5	佐賀県	41.0%
全国		18.8%

県企画部「学校基本統計」，文部科学省「学校基本調査」

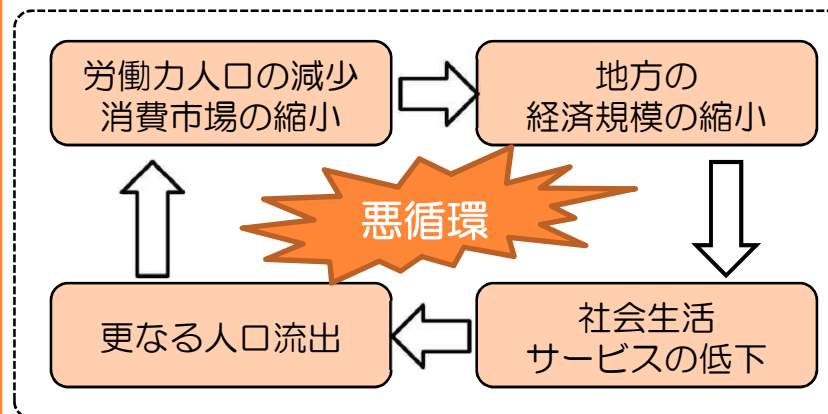
6 人口減少・少子高齢化の課題

経済規模の縮小



経済財政諮問会議「選択する未来」委員会
「選択する未来 ー人口減少から見えてくる未来像ー」

地域社会への影響



地域経済社会の縮小

○その他にも…

- ・地域の伝統行事等の継承の問題
- ・地域の核となっている学校の閉校による活力低下
- ・農林水産業の衰退や森林・農地の荒廃
- ・商業・商店街が衰退
- ・通勤通学者の減少による鉄道や路線バス撤退、運行回数の減少 等

厚生労働省「2015年 厚生労働白書」
国土交通省「2015年 国土交通白書」